

# 写真集『澤井さん野田さん《同行二人》』 編集委員会



## 活動紹介

### ■活動場所

・四日市公害と環境未来館 活動室 ・中部地区市民センター等

### ■活動日、活動頻度等

写真集は「四日市公害と環境未来館」開館の日に合わせて発行したもので、当日、澤井余志郎さんと野田之一さんにお贈りし、その後、四日市公害と環境未来館や市立図書館等に寄贈しております。また、2021年2月には、市内公立中学校全校へ寄贈しました。

2022年になって、判決50周年を機に写真展を行おうと思い、エコパートナーとして登録させていただきました。



### ■活動内容など

2022年7月に、四日市公害・原告患者側全面勝利判決50周年という副題で写真集から抜粋した30枚余の写真を文化会館にて展示しました。

3日間で100人を超える人たちに見に来ていただきました。また12月の環境フェアでも15枚余の写真を展示しました。

2024年7月から9月まで、活動室展示スペースで写真集抜粋の展示をしました。



## 代表者の想い

澤井さんが繰り返し語っていた「行政と企業と市民は緊張関係を」という言葉を忘れずにいたいと思います。『ガリ切りの記』では、過去を水に流して仲良くなるよりは、お互いが適度の緊張関係を持ち合うことが必要だ、と書かれています。

市長や『広報よっかいち』は、「四日市公害判決50年」と表現しておりましたが、これでは判決の一番大事なこと、原告勝訴が曖昧にされると思います。

また、下欄の言葉にもあるように、個人や観光業界が賛美するのは自由ですが、行政が同じようにコンビナートの夜景を賛美するのはいかがなものか、と眞間見る老朽化を見るにつけ気になっているところです。

## PR

写真展を見ていたいた塩浜小学校卒業生で70歳になるという女性のコメントです。「自分も公害認定患者になり苦しめられた。その経験もあり市がPRしているコンビナートの夜景のポスターは無神経だ、あの灯りの下でどれだけの人が苦しめられたか、自分はそんなものは見に行く気にはなれない」と。傾聴すべき言葉だと考えます。